

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：金沢市東山1-38-30・松魚亭

TEL <0762> 52-2271

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 22-2525

会長：大村精二 幹事：佃 一成

情報委員長：中村三次

1983・10月6日 第250号

北陸から見た広域観光

北陸広域観光推進協議会事務局長

本井 一郎 氏



先般、山口市での日観協総会出席を兼ねて、萩、津和野等を廻って来た。萩の修学旅行者は年間70万人である。藩政時代は、人口10万もあったのが、過疎化が続き、今日5万人の町である。武家屋敷城跡、馬小屋を改造した非常に素朴な松下村塾、その中に埃をかぶった明治維新の写真等の纏まりがあり、安心して一日たっぷり学習する内容をもっている。こうしたものは、金沢や万葉のイメージ

の高岡、立山スキー等地元北陸でも研究し、掘起せば十分可能なものが色々あると思われた。

今年の5月連休は、北陸の観光客が非常に低下した。東北新幹線、中国高速自動車道、新潟の上越新幹線の開通、東海の家康ドラマ観光、大阪四百年祭、東京デズニーランド等が、北陸へ客足が向かなかった原因と思われ、5月大型連休といえども安閑としていられない実情である。

北陸三県の広域観光から石川県を見ると、観光客数では、福井、石川、富山の順位で全国的には福井29位、石川35位、富山38位となっているが、石川県は温泉地に恵まれ、滞留的要素が高く従って観光客の消費金額も一番多い。これは温泉地ばかりでなく、金沢そのものが、北陸の宿泊基地観光基地として、北陸の真中という立地条件や古都のイメージに支えられているからともいえる。

三県の観光内容は、福井は、永平寺と若狭越前の海洋観光、石川は、温泉と兼六園及び能登半島の海洋観光、富山は、山岳峡谷を主体にし、三県お互に重なるものがないので、三県一体にして観光PRを開拓することは、今後の課題として望ましく思われる。

利用客による最も良かった観光地は、金沢、能登金剛、東尋坊、輪島、立山、千里浜、三方五湖、永平寺という順である。しかし乍ら金沢については、近代化都市再開発等で、古都のイメージがだんだん少なくなって来たように思われる。萩、その他の都市の例の如く、前田利家はじめ泉鏡花、室生犀生等、伝統文化遺産を、もっと観光に開発したいものである。

金沢はサービスの面でも、非常に落ち着いた和やかなムードがあるといわれるが、最近各観光地ともサービス面でも細心の注意を払い、口先の善意だけでなく、心の善意をどうサービスするかという傾向にあるので、一層努力しなければならない。

その他行事観光、外人観光客の誘致、交通機関の発達にともなう問題等、対応すべき諸問題も含め、今後の観光は、アイデアが勝負を決めるので努力して行きたい。

—金沢北RC例会講話より— (文責 中村三次)

私 の 名 刺

越 元 陽 二 郎



この度、山上様、由井様よりご推薦をいただき、新会員として金沢北ロータリークラブに入会させて頂きましたことを、大変嬉しく心から感謝しております。

私は昭和9年3月生れでございまして昔風に数えますと50才ということになります。出生地はお隣の富山県の高岡市で、高校迄は高岡で過ごしたわけですが、此度社命により金沢に参り、31年振りに懐しい北陸弁と毎日接する様になり、いささか蘇生の感がいたします。

昭和31年に大学を出まして、しばらく石油連盟事務局に勤めた後、日産自動車と合併の年、昭和41年に初めて兵庫県姫路のディーラーに出向、その後九州の大分それから当県と足掛け18年のディーラー生活でございます。

ご承知の様に、自動車ディーラーは小売業でございます。小売業はその所在地域の皆様に愛され親しまれてこそ、その責務である販売とサービスが成り立つわけでございます。これまでも地域密着こそ、わが仕事と思ひ、行く先々の歴史・風土・習慣・方言に至るまで学び、習い、使って参りました。当地に参りましても変りはありませんが、今迄と違いこれらがある程度予備知識がありますので、あまり遅滞なく溶け込ませて頂けそうでございます。

昭和30年代から自動車産業は我が国の産業の中の大きな柱の1つとして成長し、1台1台の車の販売をする毎に、この車がその効用を発揮するのみならず、車の生産に関連する諸業界の発展にも大きな関りがあり、そのことが日本の国家を支え発展させているのだ、という強烈な自負の念が私の今日迄の業界人生の支えでございました。この思いは今後も変ることはありませんが最近の社会論調の中には自動車に対してあまり好意的でないものが、散見されます。しかし、今一度冷静に1日の生活ぶりを振り返りますと、いかに自動車の恩恵に浴しているか、自動車なくして今日の経済生活が成り立たないことに気付く筈でございます。ロータリーの基本精神が「職業を通して社会に奉仕する」ことであると承っております。

私の仕事も自動車をより多くの人にお届け出来たかどうか社会経済の発展に資するバロメーターであると理解しています。その意味ではロータリーの根幹に通じるものがあるかと存じます。

いささか短絡めいて我田引水的な話をいたし誠に恐縮でございますが、此度ロータリー会員になれましたのを機会に先輩会員諸さのご叱声を身に帯しましてロータリアンとしての精進を計って参る所存でございますので、宜敷く御指導御鞭撻の程お願い申し上げます。

今週の花

吉山 宥海
(9月8日)

河 原 撫 子
女 郎 花
みやまほとぎす
沢 桔 梗
矢 筈 芒



1983～84年国際ロータリー 第261地区年次大会開催

1983～84国際ロータリー第261地区年次大会は秋晴れの10月1日～2日、輪島市文化会館に於いてRI会長代理として、元RI会長、ウィリアム・R・ロビンズ氏出席のもとに1,400人の会員が参加、盛大にしかも国際色ゆたかに開催された。

大会第1日午前は会長・幹事懇談会、午後は4部門別協議会が行われ、第2日は大会式典及び記念講演（NHKニュースキャスター勝部領樹氏）が行われた。

当クラブは米山記念奨学会協力優秀クラブ、又柴田会員が三十年在籍会員、土原・山岸両会員は米山記念奨学会功労者としてそれぞれ表彰された。

尚、両日も参加の会員は民宿漁火で宿泊、奥能登の美味しい魚料理を食べ大いに飲み、楽しい炉辺会合がなされた。
(大村記)



京都洛北ロータリークラブ 10周年記念例会に参加して

友好委員長 俵 外代吉

去る9月22日(木)、午後4時から京都ロイヤルホテルにて、創立10周年記念例会が開催されるにさいして、友好クラブである当クラブに御招待をいただき、当クラブより代表として大村会長、佃幹事、親睦委員会より高島委員長、釣見副委員長、友好委員会より小杉(守)会員、私(俵)と計6名参加致しました。浅田会員も出席予定でしたが急用のため、残念ながら参加できませんでした。

昭和51年、かえりみれば京都洛北RCとは、宗田会長の時に、柴田会員の御尽力により相互の親睦と友好を深めるために、友好提携を結び現在に至っており、お互に創立10周年を迎えることが出来ました。

私達一行は記念会場に着くや、京都洛北RCの山本会長を始め、皆様方の暖い心からの歓迎を受けました。大村会長は京都洛北RCの山本会長に心からお祝いを申し上げ、両クラブ一層の親睦と友好を深めること誓われ、山本会長と固く握手されました。

記念式典は厳粛に進められ、京都大学の多田道太郎先生の記念講演は「世界の中の京都」と題する、立派な講演で、感銘深く聞くことが出来ました。

記念祝宴前に、京都在住のドイツ生れで、ピアノ演奏家であるザイラー氏のピアノ演奏は誠に見事で一同ウットリとして時間の経つのも忘れさせました。演奏後、直に祝宴に入りましたが、私達は帰りの電車時刻の都合で、しばらくして失礼を申し上げ退席しました。

京都洛北RCの皆さんに深く御礼を申し上げますと共に、私達クラブの創立10周年記念式に心から暖くお迎えしたいと思います。



私の一年 (3)

交換留学生 飯野 晃子

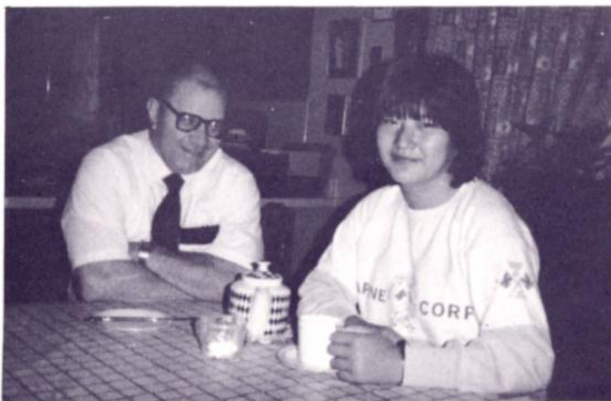
“平和、

私の4軒目のホストファミリーは、とても活動家で、私にいろいろな所で日本について話をする機会を与えてくださいました。

私は17年しか生きていないし、ずっと日本に住んでいても、日本のことはあまり、知りませんでしたが、私が知っている限りの日本の事、日本人について、知ってもらおうとつたない英語で一生懸命話しました。なぜなら、日本の良さや、日本人の事をよく知ってもらったら、その人達との間に争いは起こらないだろうと思ったからです。そして、これから社会を背負っていく私達がお互いの長所を吸収し合い、短所を直し、また補っていくことが、これからの世の中に最も大切な事だと思ったからです。

私は高校1年の時、修学旅行で、広島へ行き、戦争の残した傷あとを見てきました。その時「こんな悲惨な事は二度と起こってはいけない。二度と同じまちがいを繰り返してはいけない。アメリカへ行ったら、この気持ちをアメリカ人に伝えよう。ひとりでも多くの人に、平和の尊さを伝えなくっちゃ」と思いました。この気持ちを素直にアメリカで話した時、じっと私の話を聞いてくださっていた人達が立ちあがり、「そうだ、平和な世の中を守らなくては！」と言ってくださった時は、涙が出る程、うれしかったです。

アメリカで、あるおばあさんが、こんな話を私にしてくださいました。「戦争前、私はとても仲よくしていた日本人の女の友人がいたの、学校の寮も同室で、ほんとの姉妹のように仲よくしていたの。学校を卒業して、離ればなれになってからも、ずっと文通をしていたのに、アメリカと日本が戦争をはじめると、彼女からの手紙はとどかなくなり、今でも彼女がどこにいるのか、生きているのかさえもわからないの。たぶん、彼女はアリゾナかどこかの強制収容所へ連れてかれたのでしょ



戦争は本当にひどいものね。でも、今、こうして、日本人のあなたに会えて、良かった。」そう話してくださるおばあさんの目からは、涙がこぼれていました。私はそのおばあさんの涙を決して忘れません。勝った戦争でも、泣く人は大勢いる事があらためてわかりました。

どこへ行っても、小学生から大人まで、みんな日本の文化や日本人について、とても興味を持ってくださいました。そして、原爆での悲劇も、戦争の無意味さも、わかってくださった様でした。私一人の力では、何にもできないけれど、平和の大切さを大国アメリカの人にもわかってもらえてとても良かったと思えました。

私がアメリカへ行き、多くの友達をつくり、話をできるのも、平和だから、もし戦争をしていたらお互いにくみあっていなければいけません。でも今の私にはアメリカをにくむことはできません。だってたくさんの友達、家族がアメリカにいるんですもの。アメリカの良さを私は知っているんですもの。

全世界の人、みんながそう思っていたら、絶対に戦争が起こらない様な気がします。



